



ろうさい病院 つうしん

発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6
<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

TEL: 052-652-5511
FAX: 052-653-3533

脊椎・脊髄外科部門(整形外科)の紹介



整形外科部長 加藤 文彦

以前より当院整形外科では脊椎・脊髄外科と下肢関節外科を二本柱として診療を行ってまいりました。脊椎・脊髄外科部門では上位頸椎から胸椎、腰仙椎まで全ての部位の疾患（脊椎症、椎間板ヘルニア、狭窄症、すべり症、靭帯骨化症、脊椎・脊髄腫瘍、脊椎感染症、脊椎外傷など）を対象としています。脊椎・脊髄外科部門の年間手術件数は約500例で、当科手術の50%を占めます。脊椎・脊髄手術患者さんの紹介患者率は60%を越えており、この場を借りまして近在の先生方や名古屋大学整形外科関連病院の先生方には厚く御礼申し上げます。

当科の特徴は保存療法から手術治療までかたよりなく網羅し、患者さんの病態、年齢そして全身状態に合わせた治療法・手術法を提供できる点にあります。手術に際しては小侵襲の除圧術からインストゥルメンテーション（脊椎内固定具）を併用した広範囲の矯正固定術まで必要に応じて行っています。進入方法も頸椎から胸・

腰椎まで前方法、後方法など全てのアプローチを駆使し、患者さんの病態に合わせて進入方法・手術方法を選択し、最善の手術を提供できるように努めています。中でも頸椎の手術件数は日本でも有数で（2010年12月の読売新聞によれば全国ランキング第4位）、世界最先端の医療技術を提供していると自負しています。また平成23年度より新しく保険適応になった骨粗鬆症性圧迫骨折に対する椎体形成術（経皮的骨セメント充填術）も当院で実施可能です。また椎体形成術を発展させた手術法の治験や、腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核溶解術の治験など、未来の治療の開発に関しても積極的に取り組んでいます。

当科では脊椎・脊髄疾患でお困りの患者さん、特に手術治療を要する方の最後の砦となるべく努力してまいりました。今後もさらに努力いたしますので、引き続き宜しくご支援・ご協力の程、お願い申し上げます。

小児救急について

第二小児科部長 大木 隆史



先生方にはいつも大変お世話になっております。秋がいつだったのだろうか？と思うほど今年の秋は夏みたいでしたが、急に冷え込むようになり、ついに冬が訪れました。

肺炎球菌ワクチン、Hibワクチン、ロタワクチンなどが登場し、日本の医療行政においてワクチン冬の時代ともいうべき時代からワクチン新時代の幕開けと思わせるような環境になってきました。すでに、ロタ腸炎やインフルエンザが流行する時期が到来しています。当院でも10月末にインフルエンザBとロタ腸炎（アデノ腸炎合併）の入院がありました。ワクチンが

あるとはいえ100%の予防効果は無く、日頃の体調管理や環境衛生の管理が重要です。インフルエンザワクチンはいつも数が足りなくなるため、当科では今シーズンは慢性疾患でフォロー中の方に限らせて頂いております。先生方にワクチン接種のご負担が増えると思われませんが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

救急の題から話がずれてしまいましたが、常勤医3名とかなり厳しい条件での診療を行っていますが、症例がございましたら今後とも御紹介のほどよろしくお願い致します。また、なるべく学齢以上の児童は近くのかかりつけ医を受診するようお話ししております。お手を煩わさせてしまうこともあるかと思いますがよろしくお願い申し上げます。



診療風景



病棟

当院の救急外来の現状

救急部・一般内科部長 丸井 伸行



平成12年に救急部を設立し翌年に旧館で日勤帯救急外来を開設して以来、日勤帯および夜間・休日の救急患者を引き受けています。平成17年11月の新棟完成に伴い救急外来も新館へ移転し、平成18年度には地域災害拠点病院の指定を受けました。平成21年9月から名古屋市メディカルコントロール体制に参加し、これにより幅広い症例を受けることが可能になりました。同時に救急救命士の教育にも携わり、名古屋市の救急対策にも参画しています。この間平成10年には救急車搬送数が年間約2000件であったのが、平成14年に3000件を越し、以降は3500件前後で推移しております。これらの救急搬送患者といわゆる「ウォークイン」患者を合わせて、入院症例の約三分の一は救急外来での診療を受けておられます。

現在日勤帯は救急部スタッフ、研修医と各科バックアップ体制をとっており、夜間・休日は8名前後の医師による当直体制ならびに当番によるバックアップを行っています。当院においては、循環器系（急性心筋梗塞）や脳神経系（脳卒中）の救急疾患はもとより、可能な限り「いつの時間にも」、「どのような症例にも」対応することを心がけております。しかるに昨今の救急外来は全国的にも以前と比較して超高齢症例が増え続けており、既往症や合併症も必ずしも

軽くない症例が多数あります。そのため診療科の絞り込みも困難な症例も少なくありません。例をあげれば熱源不明の発熱疾患などは、可能な限り臓器を絞り込み個々の症例の診断と治療方針を決定した上で入院あるいは帰宅決定を行っており、この点時間をいただくことが多々ある点でご迷惑をおかけしています。加えて季節がら病床稼働率上昇に伴い、どうしても有料床をお勧めせざるを得ない機会も多くなり、この点もご迷惑をおかけしています。

先生方につきましては「救急外来」あて紹介状をいただきありがとうございます。その際にもし可能でありましたら、各専門科も併記していただければ、よりスムーズに診療が可能になりますのでご協力よろしくお願いいたします。多臓器あるいは各科にわたる問題点を有する症例は「一般内科」入院として内科全体で診療を行っておりますが、お尋ねの件があれば丸井までお気軽にご連絡頂きたいと存じます。以上の点につきましてご迷惑をお掛けしていますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

救急外来スタッフは「地域医療の窓口」としての業務を担うことを常に心がけており、今後とも整備を進めていく方針です。今後ともなにとぞご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

第3回白鳥・市民健康セミナー開催報告



循環器内科副部長 原田 憲

今回で3回目となる市民健康セミナーですが、「脳卒中医療の最前線」と題して、平成24年10月28日に名古屋国際会議場白鳥ホールにて行われました。小雨の降る中、400名を超える市民の方々にご参加いただきました。

当院神経内科部長、亀山隆先生の司会のもと、まず当院脳卒中内科部長の梅村敏隆先生が「脳梗塞の初期対応」についてご講演されました。日本では年間約13万人が脳卒中で死亡しており、また寝たきり患者の原疾患の35%が脳卒中であることを示され、早期診断、治療の重要性について強調されました。

次に「脳卒中の外科手術」の演題で当院第二脳神経外科部長の高須俊太郎先生と当院第三脳神経外科部長の服部健一先生が講演されました。高須先生は「脳卒中を予防する手術」として、脳血管剥離術について、また服部先生は「切らずに治す脳卒中」として脳血管カテーテル治療についてお話しされました。会場からは、脳

底動脈に50%狭窄があると言われたことのある女性から、今後の治療方針について相談の質問がありました。

最後に当院医療ソーシャルワーカーの森下祐一氏が「地域医療連携について」お話しされました。病院機能分化について当院は急性期病院であること、脳卒中連携パスを用いて、地域完結型の医療連携を目指していることなどをお話しされました。

また特別講演として、当院循環器内科部長、植谷忠之先生の司会のもと、名古屋大学循環器内科学教授の室原豊明先生から、「高血圧と心血管病」について、ご講演頂きました。室原先生は、脳卒中予防のためには高血圧治療のみならず、肥満、過食、運動不足、喫煙などの生活習慣の改善が大切であることを強調されていました。

参加された方々はみな真剣に傾聴されており、各講演後には幾多の質問がありました。予定時刻を少し延長して終演となりました。

連携室だより

医師交代

☆採用 (平成24年10月1日付)
水谷 哲之 外科副部長
☆採用 (平成24年11月1日付)
渡邊 友恵 リハビリテーション科医師

☆退職 (平成24年8月31日付)
高間 辰雄 呼吸器外科医師
☆退職 (平成24年9月30日付)
谷澤 雅彦 腎臓内科医師

当院の理念

皆さんとの出会いを大切にし、苦しみを分かち合い、健康で潤いある生活を送れるよう職員一同努めます。

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

☎地域医療連携室 (平日 8:15~19:30) 室長: 小林 建仁 (副院長)
052-652-5950 (TEL) 佐野 隆久 (副院長)
052-652-5716 (FAX) 事務担当: 今関 信夫・金井 久実